

斑点米カメムシ類の発生を低減する ほ場周辺の雑草管理

本日のおはなし

- 1 県内における斑点米カメムシ類の種類と生態、被害状況
- 2 斑点米カメムシ類の被害を低減する除草方法
- 3 斑点米の発生防止対策



令和7年10月21日（火）
多面的機能推進協議会研修会
農業研究所 病理昆虫課

県内の主な斑点米カメムシ類

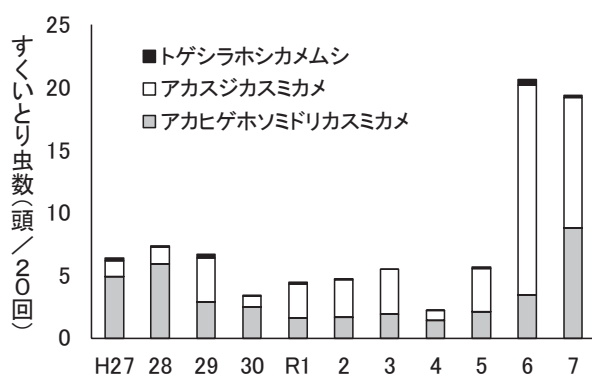


図 畦畔・雑草地における
斑点米カメムシ類の発生状況
(6/20調査、農研)

卵で越冬



アカヒゲホソミドリ
カスミカメ



アカスジカスミカメ

成虫で越冬



トゲシラホシ
カメムシ



クモヘリカメムシ

カスミカメムシ類の発生が多いが
近年、トゲシラホシカメムシやクモヘリカメムシが増加
→夏から秋にかけての高温と暖冬が大きな原因

斑点米カメムシ類の生態と被害

【カスミカメムシ類】

- ・体長：5～6 mm程度
- ・卵で越冬
産卵場所：葉鞘や葉舌内側
イネ科植物等の小穂
- ・年4～5世代
→天候次第で爆発的に増加
- ・飛翔能力が高い
- ・寄主植物：イネ科植物



カスミカメムシ類の斑点米被害



アビスカミカメムシ



アビスカミカメムシ

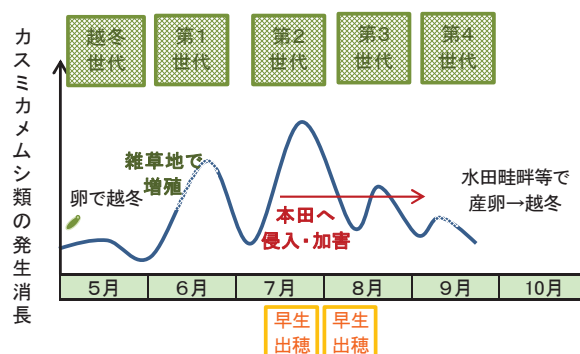


図 カスミカメムシ類カメムシの発生消長（模式図）

斑点米カメムシ類の生態と被害

【トゲシラホシカメムシ】

- ・体長：4.5～7 mm
- ・成虫で越冬
産卵場所：葉面など
- ・年2世代
- ・主に歩行で水田に侵入
- ・寄主植物：イネ科植物、マメ科植物



トゲシラホシカメムシの斑点米被害



昔からいるカメムシ
近年少しずつ増加中

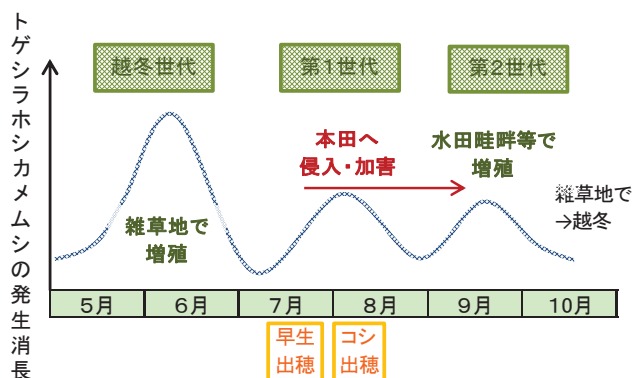


図 トゲシラホシカメムシの発生消長（模式図）

斑点米カメムシ類の生態と被害

【クモヘリカメムシ】

- ・体長：15～17mm
- ・成虫で越冬
 - 杉などがある山林で越冬
- ・産卵場所：イネ科雑草の葉や穂
- ・年2世代
- ・飛翔能力が高く、移動距離が大きい
- ・寄主植物：イネ科植物
特にエノコログサ



クモヘリカメムシの斑点米被害



成虫



幼虫

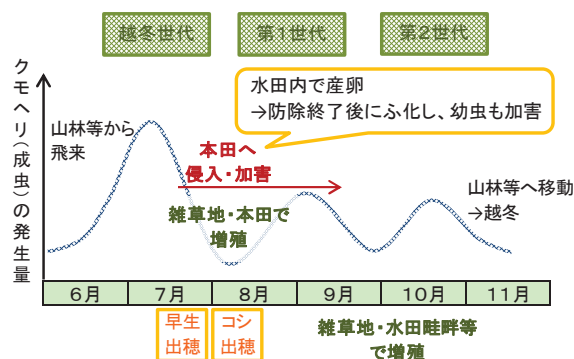


図 クモヘリカメムシの発生活消長 (模式図)

クモヘリカメムシの発生地点の推移

【クモヘリカメムシ】

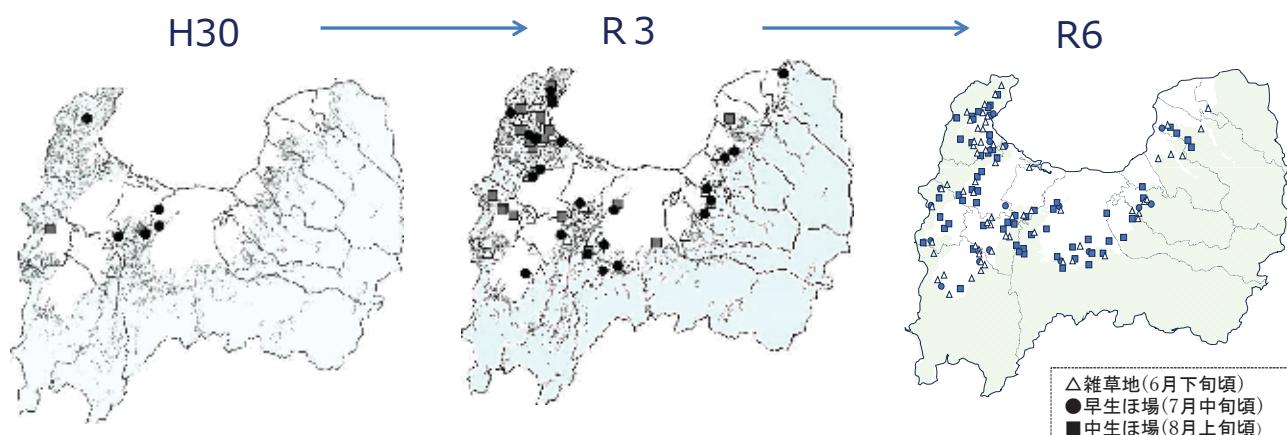


図 クモヘリカメムシの発生地点の推移
(県内農業技術者協議会調査)

クモヘリカメムシは一部の山沿いで確認されていたが、
R2頃から分布域が拡大し、今後は平野部でも注意が必要。

斑点米カメムシ類の発生状況

【イネカメムシ】要注意！

- ・現在、富山県では未確認だが R 6 に石川県で確認された。
- ・体長：12～13mm
- ・成虫で越冬→雑木林等で越冬
- ・産卵場所：水田内
(稲への嗜好性が高い)
- ・年1世代(暖地では2回発生する場合あり)
- ・基部の被害が著しい場合は不稔になり減収する



成虫

出穂した稲が大好きで、
早生→中生→晩生と
水田を移動して加害する



イネカメムシの斑点米被害
(農水省ホームページより)



図 イネカメムシの不稔米に対する防除効果

イネカメムシ発生状況 (R 7.3 現在)
(農水省ホームページより)

斑点米カメムシ類の被害を低減する除草方法

【斑点米カメムシ類が好む雑草】



ナギナタガヤ



ホタルイ



エノコログサ



オバコ



スズメノカタビラ



スズメノテッポウ



ヒシバ



クローバー

カスミカメムシ類(県内優占種)・クモヘリカメムシ

トゲシラホシカメムシ

【斑点米カメムシ類の多発要因】

- ①水田周辺に出穂している雑草が多い
- ②春～夏の高温・少雨
- ③秋の高温や暖冬で越冬虫や越冬卵が増加

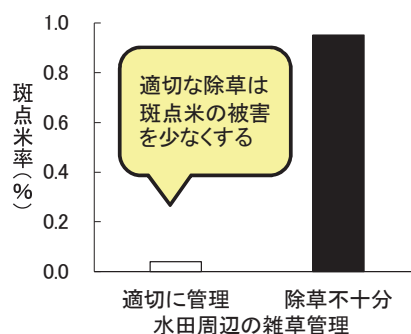


図 雑草管理による斑点米防止効果 (H27農研)

※品種：てんたかく、本田防除2回実施

斑点米カメムシ類の被害を低減する除草方法

1 水稻生育期間中の雑草防除対策

【草刈り現地の事例】

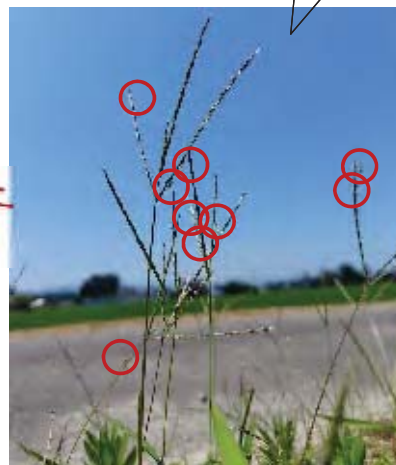


図 畦畔等の草刈り状況とメヒシバに群がるアカスジカスミカメ (R7.6.30現地)

斑点米カメムシ類の被害を低減する除草方法

1 カメムシ類が発生しにくい環境づくり

【水稻生育期間中の防除対策】

- ・ 水稻が出穂する2週間前まで（草刈運動週間）に草刈りを終える
- ・ 草刈り後もカメムシの増殖を防ぐため、イネ科雑草の穂が出ないように管理する
- ・ 集落ぐるみで取り組むことが大切

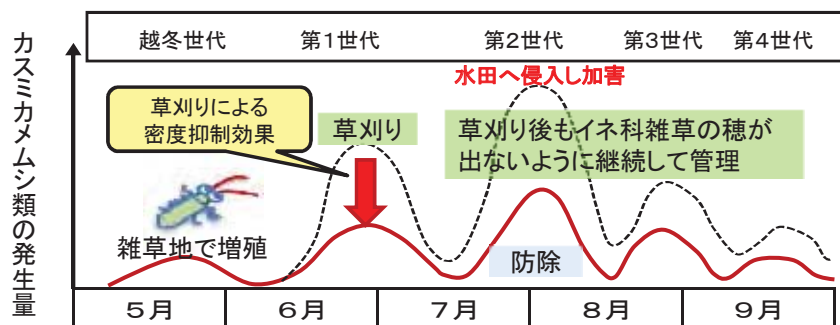


図 草刈りの有無によるカスミカメムシ類の発生推移（模式図）
※ ——— 除草実施 - - - - - 除草不十分

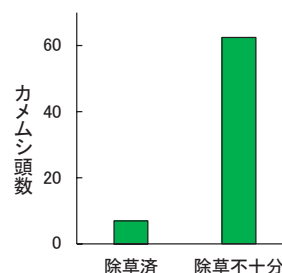


図 畦畔雑草とカメムシ類 (7月中旬調査 H27農研)

斑点米カメムシ類の発生防止対策

1 カメムシ類が発生しにくい環境づくり

【水稻生育期間中の防除対策】

- ・ 麦あと田等は、大豆、園芸作物、緑肥等を積極的に栽培
→後作まで日数がある場合は、雑草が繁茂しないよう管理
- ・ 本田内雑草（特にノビエ、ホタルイ）の除草を徹底



図 不作付けほ場
(R7.9.4)



図 水田内のイネ科雑草
(R7.9.4)

水田内のノビエはイネより早く出穂するため、カメムシが一足早く水田へ侵入する



斑点米カメムシ類の発生防止対策

1 カメムシ類が発生しにくい環境づくり

【水稻収穫後の防除対策】

- ・ 水稻収穫後はひこばえが発生する前に耕起する
→カスミカメムシ類の産卵場所をなくす
→産卵された越冬卵を土中に埋め込む
- ・ 水稻収穫後も畦畔や周辺雑草地は放置しない

【秋耕の効果】

- ①土づくり
- ②翌年の田植え後のワキ防止
- ③ひこばえの発生防止
→カメムシの密度低下
→イノシシ等の侵入防止
→翌年の漏生イネ発生防止
- ④ニカメイチュウの発生密度の抑制



図 出穂したヒコバエ
(R6.10.15 富山市ほ場)

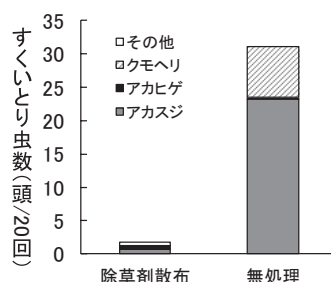


図 水稻収穫後の除草剤散布が斑点米カメムシ類に及ぼす影響（9月末調査R6富山農振セ）



図 越冬前の畦畔にいるクモヘリカメムシ
(R4.11)

斑点米カメムシ類の発生防止対策②

2 割粃の発生軽減

- ・ケイ酸質資材を継続的に施用
- ・適正な栽培管理で、目標穂数や
粒数を確保



割粃はカメムシに狙われやすい

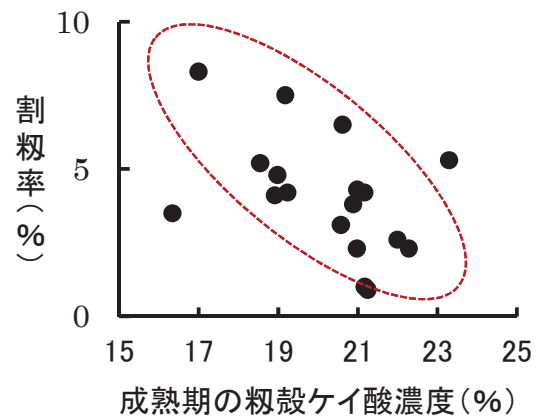


図 成熟期の籾殻ケイ酸濃度と割粃率 (H23農研)

※品種：てんたかく

注) 熔成けい酸りん肥

0～400kg/10aを春施用

斑点米カメムシ類の発生防止対策③

3 防除効果の高い薬剤の選定と適正な防除の徹底

【薬剤の選定】

- ・基本防除は、**残効性の高い薬剤**を使用する。
 - ネオニコチノイド系 (スタークル剤等)
 - フェニルピラゾール系 (キラップ剤)
 - スルホキシミン系 (エクシード剤)

トゲシラホシカメムシが多い地区は
有機リン系 (スミチオン剤等) が
おすすめ



【防除方法】

- ・早生品種や山際等の大型カメムシの発生が
多い地域では穂揃期と傾穂期の2回防除を徹底
→散布間隔は7日を目安に10日以上あけない
- ・中生・晩生品種は傾穂期防除を徹底
- ・カメムシが多発した場合は追加防除を実施

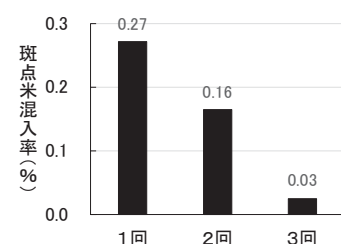


図 防除回数と斑点米混入率

(R6早生登熟状況調査：畦畔沿い)

防除回数：穂揃期以降の有効防除回数